国語国文学専修
卒業論文成績優秀者
による研究成果
要旨集2021

夢野久作「押絵の奇蹟」論 ―トシ子と母をめぐって―

文18-0038
板井晴香

「押絵の奇蹟」梗概

井ノ口トシ子の母は押絵の名手であったが、トシ子は母が押絵の手本とした歌舞伎役者中村半太夫と生き写しであった為、**父は母の不義を疑い母を斬り殺した後自殺してしまう。**母の潔白を信じながら不義の裏付けを見つけてしまうトシ子は、押絵の題材となった八犬伝を読み「奇蹟的な喜び」を覚える。結核で倒れたトシ子は半太夫の息子半次郎へ「自身が不義の子ならば彼が母の芸術を表してくれるように、胎教による空似ならこの恋が気高く清浄であるように」と願う手紙を書くのだった。

先行研究の論点と疑問点

①トシ子の母は不義をしていた
→不義を断定せずに読んだ場合の**トシ子の感情**は？

②トシ子と中村半次郎の恋について
→本当にトシ子の恋が**本題**なのか？

③押絵と本文の関係
→**トシ子にとっての「押絵の奇蹟」**とは？

トシ子について

父「俺は今日がけふまで知らなんだ。けれども最前あの櫛田神社の額を見ながら、人の噂を聞いてゐるうちに、**あの犬塚信乃の押絵の顔が、中村半太夫の舞台に生き写し**であることがわかつた。そればかりで無い。貴様の作つた人形の顔が上物になればなる程、**中村半太夫に似てゐる**ことも、其処に居つた人の噂で初めて気が付いた。コヤツ（私）の眼鼻立ちが中村半太夫と瓜二つになつてゐることは、近所の子守女まで知つて居ることも彼の絵馬堂で初めてきいた。
……此年月貴様に子が生まれぬわけも今はじめてわかつた。……キ……貴様は、よくもよくも此の永い間俺に恥をかかせ居つたナ」

母「不義を致しましたおぼえは毛頭御座いませぬが……此上のお宮仕へはいたし兼ねます」

母は言い訳をせず斬り殺される

怪我をして引き取られたトシ子は夜お湯殿で鏡を見ることを楽しみにしていたが
鏡に映るトシ子の顔は様々な人に似ている
→「犬塚信乃の顔と、阿古屋の顔」「亡くなられたお母様」の顔

トシ子はだんだんと母に似てくる自分の顔を**気味悪く感じる**ようになり、港の石垣の上から懐中鏡を海に投げ込み**「自分の顔とお別れ」**して東京へ旅立つ

「不義の子」である自分や、母や自分にまつわる運命との**決別**を表している

鏡に対し馬鹿らしい・恐ろしい等と感じていた＝世間の目

トシ子の母と中村半次郎に向ける感情は同じ
中村半次郎は**母に似ており**「阿古屋の琴責め」の阿古屋を演じる→母にして欲しかったこと（無実の証明）・懐かしさ・悲しさを感じている

押絵の奇蹟の意味

トシ子は阿古屋として母の潔白を証明しようとしまた犬塚信乃として真実を取り戻そうとしている
・トシ子は琴・ピアノ・オルガンを弾く
・図書館に通い胎教による空似の根拠を探す

母との再会
見ないようにしていた鏡をもう一度見る

トリガー

母の似姿
中村半次郎

阿古屋の琴責め

景清の行方を探す鎌倉方の岩永左衛門は、阿古屋を捕らえて拷問しようとするが、畠山重忠は阿古屋が愛人のありかを知っているかどうかを探るため、**琴・三味線・胡弓の三曲を弾かせ、その音色にすこしも乱れのないことから彼女の無実を知り釈放させる**

芳流閣の二犬士

犬塚信乃は、成氏に村雨丸という刀を献上しにやって来たが、直前に偽物とすり替えられていることに気が付き、**「時間をもらうことが出来れば本物を取り返す」**と申し出たが取り合ってもらえず、捕り手として牢から出された犬飼現八と戦うことになる

「押絵の奇蹟」とは何なのか？

「押絵」で表象されるトシ子が「母」の似姿である中村半次郎を見つけ**「母」と再会できた「奇蹟」**
またその「奇蹟」から中村半次郎に対する恋へと発展し「母」に代わる**この世に縋れるものを見つけて死んでいくことのできる「奇蹟」**とも言える